

54. 接続法 (3)

IV. 接続法の用法

接続法第1式と接続法第2式の間には意味の違いはなく、ただその用法が違うだけにすぎません。第1式は直説法現在から作られたからその意味は現在であり、第2式は直説法過去から作られたからその意味は過去である、という誤解はしばしば初心者が多いまちがいです。

「要求話法」……………接続法第1式

「非現実話法、約束話法」……………接続法第2式

「間接話法」……………接続法第1式(または接続法第2式)

a. 要求話法

親称2人称に対する要求や命令は命令法を用いますが、1人称や3人称にたいしては接続法第1式による要求話法が使われます。

Gehen wir ins Kino!

「映画を見にゆこう！」

Sprechen Sie noch deutlicher!

「もっとはっきり話してください！」

(本来、敬称の *Sie* は3人称複数の *sie* 「彼ら」を借用したものですから命令法を持っておらず、そのため要求話法で命令の意味をあらわします)

慣用的に次のような場合には「とりきめ」を表す要求話法が用いられます。

Man nehme nach dem Essen drei Tabletten. 「食後3錠服用のこと」

Das Dreieck ABC sei ein gleichseitiges Dreieck.

「三角形ABCは二等辺三角形とする」

しかし現代ドイツ語では、だんだんと話法の助動詞を用いて「要求」の意味をあらわすことが多くなっています。

Er arbeite noch fleißiger.

「彼はもっと熱心に働くように」

Er soll noch fleißiger arbeiten.

「彼はもっと熱心に働くべきだ」

b. 非現実話法

仮定を表わす前提部とその結論部には接続法第2式を用いて、非現実話法をつくります。

Wenn ich Geld hätte, so kaufte ich einen neuen Wagen.

「もしお金があれば、新車を買うのだが」

英語の *if* と同様に仮定部の従属接続詞には *wenn* を用いて副文を作り、主文の前にはしばしば *so* をおくこともあります。

主文の接続法第2式の定動詞 *kaufte* は直説法過去の *kaufte* とまったく区別ができないため *werden* の接続法第2式である *würde* を助動詞として用いることが多いのですが、これは英語が *would* を用いるのとまったく同じ考え方です。

Wenn ich Geld hätte, so würde ich einen neuen Wagen kaufen.

この *würde* は現代ドイツ語では主として結論部で用いられ、前提部ではこうした「*würde* による言い換え」はまだ十分に浸透してはいません。また *sein*, *haben*, *werden* あるいは話法の助動詞の場合には「*würde* による言い換え」はほとんど用いられません。

前提部では英語と同様に接続詞の *wenn* は省略可能で、その場合は定動詞を文頭へおきます。

Hätte ich Geld, so würde ich einen neuen Wagen kaufen.

前提部のみ、あるいは結論部のみでそれぞれ独立的に用いることもあります。

Wenn ich nur Geld hätte! 「もしお金さえあればなあ！」

Ohne Wasser könnte man doch nicht leben!
「水がなければとても生きていけまい」

非現実話法で過去を表わす場合は英語と同様に完了のかたちを用います。

(現在) Wenn ich Geld hätte, so kaufte ich einen neuen Wagen.

Wenn ich Geld hätte, so würde ich einen neuen Wagen kaufen.

「もしお金があれば、新車を買うのだが」

(過去) Wenn ich Geld gehabt hätte, so hätte ich einen neuen Wagen gekauft.

「もしお金があったなら、新車を買ったのだが」

(現在) Wenn ich ein Vogel wäre, so flöge ich zu dir.

Wenn ich ein Vogel wäre, so würde ich zu dir fliegen.

「もし鳥なら、君のところへ飛んでいくのに」

(過去) Wenn ich ein Vogel gewesen wäre, so wäre ich zu dir geflogen.

「もし鳥だったら、君のところへ飛んでいったのに」

英語の *as if* に相当する非現実のひゆを表わすには *als ob* と接続法第2式を用います。

Er spricht Deutsch, als ob er ein Deutscher wäre.

「彼はまるでドイツ人みたいにドイツ語を話す」

als ob の *ob* は省略できますが、その場合は定動詞が前におかれます。

Er spricht Deutsch, als wäre er ein Deutscher.

相手にていねいに話しかける場合にも接続法第2式が用いられますが、こうした使い方を外交的接続法といいます。とくに現代ドイツ語では日常ひんぱんに用いられます。

Das wäre besser. 「そのほうがいいでしょうね」

Könnten Sie mir helfen? 「手伝っていただけませんか？」

Ich möchte ein Glas Bier (trinken). 「ビールを一杯ほしいのですが」

英語で “*would like to ~*” という表現がこのんで用いられるように、ドイツ語では *möchte* というかたちがしばしば用いられます。この *möchte* は本来は助動詞 *mögen* の接続法第2式なのですが、いまではむしろ助動詞としても単独の動詞として用いられ、辞書などにもこのかたちで表示されています。

	möchte	「…したい」		
ich	möchte		wir	möchten
du	möchtest		ihr	möchtet
er	möchte		sie	möchten

Was möchten Sie?

「何をさしあげましょうか？」

Ich möchte noch etwas Wein.

「もう少しワインをいただきたいのですが」